

荷風論を読む 〈荷風作品を偏愛した文学者たち〉

2026年10月～12月

明治からの日本近代文学を語るうえで、坪内逍遙が1891（明治24）年に創刊した「早稲田文学」と、1910（明治43）年に当時の慶應義塾大学文学科教授の森鷗外や上田敏が永井荷風を推挙して創刊した「三田文学」、二つの文芸誌の潮流があります。

永井荷風は約5年間にわたり初代編集長を務め、久保田万太郎や谷崎潤一郎などの新しい才能を見い出し、その後も「三田文学」は、多くの文人たちを輩出します。



今回は、荷風文学に親しむ切り口として、「三田文学」輩出の文学者たちを中心に荷風論を集めました。

作家名（生没年）	荷風論、あるいは著作	関係性	
正宗白鳥（1879～1962）	『荷風追想』 追悼文	同じ年生まれの文豪。「早稲田文学」派で自然主義の代表作家	
日夏耿之介（1890-1971）	『荷風文学』（1950）	詩人。「早稲田文学」派で神秘主義的な象徴詩を得意とする。荷風作品を偏愛し、荷風の生前から荷風論を発表する。	
佐藤春夫（1892-1964）	『小説永井荷風傳』（1960）	三田文学門下生。詩人、評論家、小説家。	
堀口大學（1892-1981）		三田文学門下生。詩人。荷風が処女訳詩集に序文を書く。	
小島政二郎（1894-1994）	『小説 永井荷風』（1972→2007）	三田文学門下生。編集二代目の「澤木四方吉」に支持	
石川淳（1899-1987）	「敗荷落日」 追悼文	荷風文学を愛し、老年の荷風を憂い、その享年を超えて旺盛に活動。	
平井呈一（1902-1976）	『平井呈一 生涯とその作品』 伝記	不肖の弟子。永井荷風と佐藤春夫に師事し、江戸文学に造詣が深い翻訳者として大成。『全訳小泉八雲作品集』は偉業。	
伊庭心猿（1908-1957）	『荷風翁の発句』	不肖の弟子。風狂俳人。戦前戦後、市川市真間に住む。	
野口富士男（1911-1993）	『わが荷風』（1976）	慶応出身。『わが荷風』で読売文学賞随筆・紀行賞受賞。	
安岡章太郎（1920-2013）	『私の墨東綺譚』（1999）	慶応出身で三田文学でデビュー。市川市ゆかりの作家。	
遠藤周作（1923-1996）	『留学』（1965）	第七次「三田文学」編集長。自らのフランス留学を荷風と重ねる。	
磯田光一（1931-1987）	『永井荷風』（1979）	文芸評論家。『永井荷風』で第1回サントリー学芸賞を受賞。	
半藤一利（1930-2021）	『荷風さんの戦後』（2006）	ジャーナリストで作家研究も手がける。	
江藤淳（1932-1999）	『荷風散策』（1996）	慶応出身。文芸評論家。	
草森伸一（1938-2008）	『荷風の永代橋』（2004）	慶応出身。評論家。『荷風の永代橋』は、井上洋介装丁	
川本三郎（1944-）	『荷風と東京』（2006） 『荷風の昭和』（2025）	ジャーナリストから評論家へ。月刊誌『東京人』の編集も務める。『荷風と東京』で読売文学賞、『荷風の昭和』で小林秀雄賞受賞。	
持田叙子（1959-）	『朝寝の荷風』（2005） 『永井荷風の生活革命』（2009） 『荷風へ、ようこそ』（2009） 『おとめ座の荷風』（2023）	慶応出身。新進の荷風論を次々に展開。世田谷文学館の「永井荷風のシングル・シンプルライフ」展を監修。『荷風へようこそ』でサントリー学芸賞を社会・風俗部門で受賞。三田文学新人賞選考委員をも務める。	
…ほか多数			